



# 私のひとりごと

## 当たり前がいい

猛暑だった夏が過ぎ、秋の気配が徐々に近づいてきたように感じられるが、それでも未だ厳しい残暑が続いている。私の子供の頃はこんなにも暑かったのだろうか？ ただ今も昔も変わらないのは、この時期の夕暮れには必ずと言って良いほど入道雲が現れ、バケツの水をひっくり返したような夕立が降ること。そんな激しい雨が過ぎ去ると、ウソのようにカラリと晴れて気持ちの良い夏の風が吹く。そんな中、幼いころの私は、日が暮れて真っ暗になるまで夢中になって遊び回っていたものだ。

さて、そんな思い出話はさておき、毎年夏になると恒例のバーベキュー大会が2度行われる。一度目は親族による集まり。この日は神戸の迎賓館で副料理長をしている甥が、腕を振るって調理をしてくれる。



数日前から仕込んだ食材を使い、私たちの見ている目の前で仕上げの調理をしてくれるのである。家庭のバーベキューと言ってもこれがなかなか本格的で、毎年工夫を凝らした珍しい料理でみんなを楽しませてくれる。今年のメインはチキンの丸焼きと、金目鯛の蒸し焼き。持参のバックからは、一般家庭であまり使わないような香辛料や調味料が何種類もお目見えする。また、丁寧に巻かれた布からは、大きさ・形の違った数本の包丁を取り出し、食材に合わせて使い分けている。そして、時には軽快なトークも交えながら、手際良く調理を進めていく。同じ食材であっても、様々な味に変化させるのが実に上手い。そして仕上げは季節のフルーツとアイスクリームを使った自家製のクレープ。これをもって、バーベキューのフルコースは幕を閉じる。しかし、プロの料理人の手さばきは見ているだけでワクワクしてくる。バーベキューと言えばガッツリと食べるのは始めだけで、大半はワイワイと世間話に花が咲かせるのが一般的であるが、私はこの日だけは、終始食べることに徹することになっている。食べることでこれ程までに人の心をワクワクさせることのできる甥には、この時だけは同じ職人として完敗である。甥がどうして料理人の道に進んだのか少し分かるような気がする。

さて、二度目のバーベキューは当社主催の業者会である。今年も忙しい中、25名の工事関係者が参加してくれ、盛大に行われた。中には、建材営業のサラリーマンの人もいるが、大半は独立した親方である。一昔前の親方と言えば、気性の荒い頑固者というイメージだったように思われるが、今の親方達はマイルドな性格の人が多く（一見、恐そうに見えるが・・・）、人情味溢れる職人集団である。個性豊かな人が多く、例えばバーベキューの帰り際にもその個性が実に良く表れている。事前に予約しておいたタクシーや代行を呼んで帰る人、迎えに駆けつけた奥様と一緒に、後片付けまで手伝ってくれる人、ほろ酔い気分でトボトボと歩いて帰る人、寝袋持参で車中泊する人など、その行動は実に興味深い。こうして、今年も恒例の行事を、当たり前の様に行えることができた。

当たり前と言えば、この時期からポチポチと衣替えの準備を始める。早々と夏物の衣類を仕舞う支度をしていると、はたして来年もこの服を着る事ができるのだろうか？と、しみじみ思う。いつまでたっても元気である保証はないし、未来のことは1年先であっても予想通りいかないものだ。巡り来る季節の衣類を何気なく取り出せる時、私はいつもホッとす。若い時には分からなかったことだが、今ではそんな当たり前の事がしみじみと嬉しく感じられるようになったのだ。こうして今年の暑い夏がまた、当たり前のようには通り過ぎていくのである。

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき・・・、

あーがしう  
ございました!!

